

公共下水道日光処理区

三月末に一部供用開始

市民の皆さんが、健康で衛生的な生活のできる環境の良い街づくりをめざして、公共下水道整備が進められています。

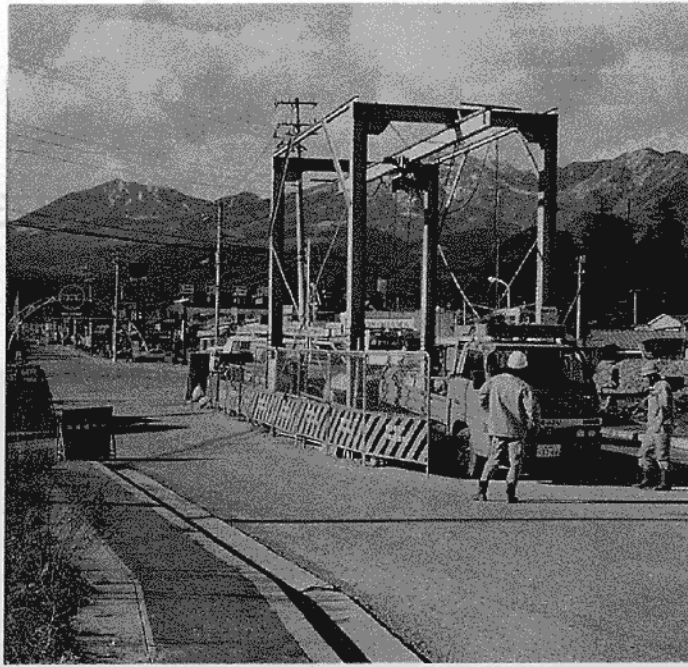
日光処理区の工事が順調に進み、いよいよ三月末には一部供用を開始する見通しとなりました。供用を開始する地域は、東町と七里の一部で、

すでに下水管が布設され公共汚水ますが設置されている、約七十八ヘクタールの地域です。

巨額の費用を投じた公共下水道も、その地域の皆さんに利用していただかなければ、その目的も効果もあがりませんので、公共下水道の意義をご理解いただき早い時期に使用を開始してください。

公共下水道も他の施設と同様に、完成後も維持管理等に費用がかかりますが、この費用や建設費は、使用される皆さんから使用料を納めていただき充当することになります。

現在、市が維持管理している中宮祠、湯元の処理区については、現行の使用料体系では維持管理費をもまかないきれないのが実態です。使用料の額は、下水の量によって決まりますが、その一方メートル当りの単価については、中宮祠・湯元地区に適用されている現行の使用料体系の見直しを含め、三月の市議会で審議していただくよう準備を進めています。



▲ 一部供用開始を間近に工事は急ピッチ

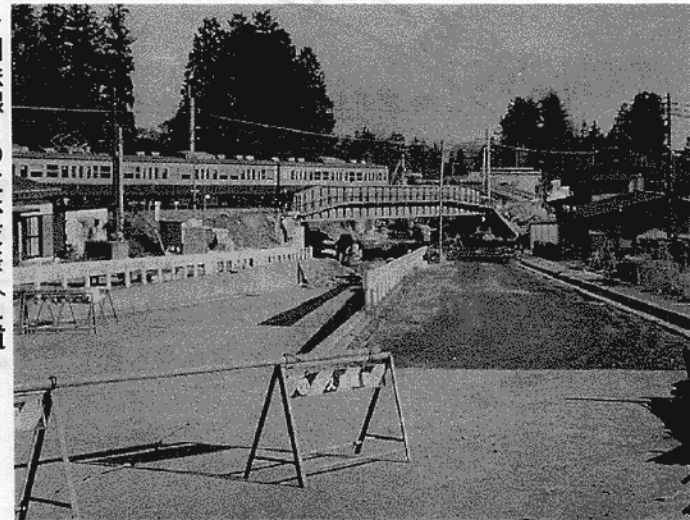
ことしの秋開通 相生七里線

都市計画道路三・五・五号相生七里線は、昭和二十九年に都市計画を決定、四十八年三月事業認可を受けました。

この道路は、日光駅前土地区画整理事業として整備した御幸町の天理教会わきから日光宇都宮道路日光インター入口手前交差点までの都市計画道路を、さらに延長し国道一一九号線（宝殿の筋違橋から約百メートル下方）に直接結ぶ、延長五百七十メートルの道路です。

工事は事業認可後、四十九年度末までに日光インターまでの二百四十メートルを完成し、日光インター入口から国道間の工事は、五十二年度から開始されました。

五十九年度末までに二億六千四百四十七万二千円をかけ、用地取得、家屋・物件の補償、道路築造が行われました。国鉄日光線との立体交差（宝殿公道橋新設）工事は、国鉄との建設工事協定により六十年代から始められ、工事費



▶ 国鉄線との立体交差（公道橋）工事はいよいよ最終段階

は二億一千五百万円が見込まれています。

この工事は、列車運行に支障がでないよう一部夜間作業も行われましたが、周辺の皆さんの深い理解と協力により予定どおり進んでいます。

現在までの総事業費は五億一千二百七十七万二千円です。六十二年度には、国道との交差点整備や、道路補装、日光インター取り付けなど、最終的な付帯工事を進める計画で、今年の秋には供用開始ができるよう急ピッチに進められています。